

## 別室の有効活用で教室復帰を目標にした取組について

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、1年次の学級の雰囲気になじめず、夏休み明けには別室の使用を始めるようになった。別室ではオンライン授業や、一人1台端末を使用した学習によく取り組んでいる。支援員や他の生徒とも良い関係を作ったが、時折気持ちが沈むときもあった。最近は、数学や総合的な学習の時間の授業に参加できるようになっている。

### 具体的な取組

#### ○多様な学びの場を提供する取組

当該生徒は、別室からオンライン授業に参加することに意欲をもっていたため、オンラインで授業を受けられるよう支援をした。その結果、得意な数学は、教室で授業に参加できるようになった。個別指導が必要な教科はオンラインでなく、学習支援員との学習の時間を設定した。

#### ○校内別室の環境整備・ルールづくり

支援員と連携し、校内別室の環境整備・ルールづくりを行った。

また、別室利用のルールを考える際には、他校の別室での過ごし方やルールを情報提供し、本校にあった環境やルールについて提案を行った。

今後は利用生徒の意見を生かした環境整備・ルールづくりを進めていく。



#### ○生活指導部会への参加

定例の生活指導部会に参加し、不登校生徒の現状について確認した。別室使用ルール、生活アンケート等を助言、提案した。

今後は授業参観を増やし、気になる生徒の様子を見て、学習支援や助言を進めていく。

#### ○不登校に関する現状分析

生活アンケートを年2回実施し、当校の良い点や課題が見られる点について分析及び考察をした。結果について、生活指導部や他の教職員と共有した。

### 成果

校内別室の環境整備やルールづくりを進めたことで利用生徒が安心して利用でき、落ち着いて学習に取り組めるようになってきた。

教職員も非常に協力的なため、今後も、学級担任や支援員等と連携を深め、生徒が学習しやすい環境を作っていきたい。

### 課題

生活アンケートの分析、考察を日々の教育活動に反映することが課題。支援員と連携し、別室で生徒の希望に合った学習も取り入れていきたい。

## 別室や様々な場所での支援で成長

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校の早い時期に別室登校が始まった。1年生のときはタブレット端末を使っての調べものをして、午前中に下校することが大半だった。2年生からは総合的な学習の時間、保健体育等の参加できる授業が増え、給食を食べてから下校するようになった。

### 具体的な取組

#### ○多様な学びの場を確保

登校時に、参加や見学のできる授業を本人と確認し、別室と教室を併用した。別室では、タブレット端末を使用しての生物や科学の調べ学習への取組や、ワークブックへの取組を支援員と共に支援し、教室での授業や体育の授業に付き添った。

#### ○個々の不登校生徒への支援

当該生徒が教室か別室での学習かどちらかを選択できるように「自己決定」の場面を設定した。毎日の取組を記録ファイルにまとめ、担任と連携し、保護者への電話連絡や面談で別室及び教室での取組状況や生徒の頑張りを伝えた。

#### ○支援会議への参加

定例の特別支援会議に参加し、別室利用生徒、生活アンケートやアセスメントシートについて共有、提案した。SSWからは支援に必要な情報を収集し、確認して、不登校生徒への対応について話合った。

#### ○「居場所づくり」の推進

校内での職場体験に付き添い、見守った。避難訓練の確認を別室で一緒に行い、積極的に意見を言うようにさせた。別室で安心し、集中できるように机の配置を工夫し、環境を整えた。



### 成果

体育館での行事に2時間近く参加する等、集団の中で過ごす時間が増えた。別室支援員との連携で過ごしやすい環境づくりも行うことができた。保健体育の見学、総合的な学習の時間への参加等、一日の過ごし方について生徒の「自己決定」を引き出すことができた。

### 課題

SCやSSWとの連携、相談をもっと多くしていきたい。アンケート結果、考察を生かして各校に還元していく。

## 教室復帰のためのエネルギーチャージを

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生のときの転居により、新しい環境になじめず別室で自分の空間に籠もって過ごしていたが、2 年生になり別室が整理され、朝 9 時から 5 校時まで過ごせるようになった。支援員との交流を積み重ね、レクリエーションを楽しみ、他の別室利用生徒とも関わり、少しずつ自分の感情を表現できるようになってきた。

### 具体的な取組

#### ○個別学習の時間の設定

一人 1 台端末のアプリの学習や、漢字、社会のワーク等の学習への取組の時間を設定し、提出物への意識がもてるようにした。また、職場体験の事前学習にオンラインで一緒に参加し、事後学習やお礼状の作成を支援員と共に指導した。

#### ○校内別室の環境整備

机や椅子の配置、掲示物等について他校の好事例を伝え、校内別室支援員と環境整備を進めた。レクリエーションの遊具等もそろえて、校内別室支援員と生徒、学年の教員等と交流する時間を設定し、コミュニケーションを深めた。



#### ○生活アンケートの実施

全校生徒を対象にしたアンケートを実施することができた。結果の分析、考察を作成した。概ね肯定的な結果だったが否定的な意見が学年によって少し見られたので、今後もアンケートを続けて、改善や提案を少しずつ行っていく。

#### ○校内委員会への参加

週 1 回の特別支援委員会に参加し、不登校生徒の状況について確認し、生活アンケートの提示をした。また、SSWと連携した不登校生徒の保護者への支援について報告した。

### 成果

1 年次よりも学校で過ごす時間が増加している。また、職場体験のお礼状を作成し、届けに行くことができた。

学校全体では生活アンケートを実施し、分析、考察を教職員と共有することができた。

### 課題

担任等の教員、養護教諭、SCやSSWとの連携の機会を増やし、別室を利用しない生徒の状況も確認し、未然防止や早期支援を充実させること。

## 不登校巡回教員の取組について

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 2 年生であり、小学生の時から登校しぶりが始まった。

中学校の入学式には登校したが、翌日から欠席するようになり、教室にも入れなくなった。登校状況は安定しなかったが、時折、SCの面談や部活動のために短時間の登校をすることがあった。校内別室は5月から利用を開始し、徐々に登校日数や利用時間が増え、9月からは毎日、校内別室に登校している。

### 具体的な取組

#### ○魅力ある学校づくりの推進

不登校未然防止アンケートを行い、学年ごとの生徒の実態を把握することができた。また、職員会議ではアンケート結果を教員に共有し、共通理解を図った。

#### ○校内別室の環境整備

当該生徒が安心して利用できるよう、校内別室の物品の購入や、レイアウトについて助言を行った。



#### ○不登校の未然防止に関する研修（12月実施予定）

校内研修において、不登校の未然防止についてアンケートの結果に基づき、これまでの取組を見直し、「居場所づくり」や「きずなづくり」の一層の充実を図る。

#### ○不登校対応についての情報共有

校内委員会では不登校支援の在り方について情報共有を行うことができた。

また、不登校巡回教員連絡会で得た情報を、不登校担当の教員や、支援員に共有し、校内別室のルールづくりや支援方法について、助言を行った。

### 成果

校内別室の環境整備や支援体制が充実した。また、担任や支援員、SCとの情報共有をこまめに行い、個に合わせた支援ができており、校内別室を利用する生徒が増加した。

### 課題

授業観察や、生徒の学校生活の様子を観察し、不登校の未然防止の取組を充実させていく。

## 不登校対応巡回教員による校内における取組について

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生から登校しぶりはあり、2 年生で欠席が 30 日以上となった。3 年生になってから教室に入れなくなり欠席が続いた。

書字の困難さや学習への苦手意識があり、学習への意欲をもてなかったり、睡眠や食習慣の乱れなど生活習慣が整っていなかったりする。

### 具体的な取組

#### ○SCとの連携

SCは日常的に校内別室指導の様子を観察し、生徒への声かけを積極的に行っている。また、不登校生徒の状況を共有し、支援方法の検討を行うとともに、SC面談につなげた。

また、学校を休み始めたり、休みが続いたりした場合は、SCと一緒にアウトリーチを行い、登校の再開につなげることができた。

#### ○校内別室の環境整備

パーティションを設置し、プライバシーの守られる空間にした。

また、パーティションや机は可動式のため、目的に応じて移動させ、柔軟に空間を活用している。



#### ○区立教育センターとの連携

校内別室と教育支援室を併用している生徒について情報共有を行い、個々の生徒の状況について理解を深めるとともに、支援の充実を図った。

#### ○魅力ある学校づくりの推進

不登校未然防止アンケートの実施を通して、教職員が生徒の状況を把握し、授業や学級経営の改善に努めた。筆記の多い課題には無理に取り組むことはせず、iPad の学習ソフトを活用して学習に取り組めるよう支援した。

### 成果

校内別室での支援体制の強化により、当該生徒の安心感が高まり、中学校 3 年生の 5 月から週 2 日程度、校内別室を利用するようになり、そのペースが定着して 9 月には週 2 日程度、登校できるようになった。

### 課題

進路に向けて主体的に取り組めるよう、自信を付けさせながら、担任や不登校対応巡回教員や支援員で情報共有を行い、進路実現に向けた支援をしていく。

## 不登校巡回教員の取組について

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 2 年生であり、小学生のときから登校しぶりが始まった。生活の変化により、気持ちが落ち着かなくなり癇癢を起こすようになった。中学校 2 年生の 4 月からは、登校ができるようになったが、集団への苦手意識があり、教室ではなく、毎日、校内別室を利用している。

### 具体的な取組

#### ○魅力ある学校づくりの推進

不登校未然防止アンケートを行い、生徒の実態を把握することができた。また、アンケート結果を教員に共有し、共通理解を図った。

#### ○支援員に向けた研修の実施

校内別室での支援について、管理職や不登校担当の教員と打合せを行い、方針を策定した。それを基に、支援方法について支援員に共有した。

当該生徒は、校内別室での活動を自身が決めることで、教室の授業にオンラインで参加したり、問題集を活用して学習したり、カードゲームやボードゲームを行ったりしている。自己決定の場面を多く設定することで、主体性を大切にした。

#### ○SCとの連携

日常的に校内別室の観察を依頼しており、気になる生徒に声をかけたり、カウンセリングを行ったりし、生徒の不安や悩みを軽減させることができた。聞き取った情報は、担任や学年の教員、支援員に共有し、支援の充実につなげることができた。

#### ○不登校対応についての情報共有

職員会議において、VLPでの支援方法について情報共有を行うことができた。

また、不登校巡回教員連絡会で得た情報を、不登校担当の教員や、支援員に共有し、校内別室のルールづくりや支援方法について、助言を行った。



### 成果

校内別室の環境整備や支援体制が充実した。また、支援員や教員との情報共有をこまめに行い、個に合わせた支援ができており、校内別室を利用する生徒が増加した。

### 課題

授業観察や、生徒の学校生活の様子を観察し、不登校の未然防止の取組を充実していく必要がある。